

おいしい農作物や海の幸など、たくさんの優れ物がある佐世保。中でも、伝統の技が息づくみかわ焼は「職人」「手作り」といった言葉に弱いわたしにとって、ぜひとも取材してみたい題材でした。取材に応じていただいた窯元さんたちは柔らかな物腰ながらも、器への情熱が伝わる語り口が印象的でした。工房では、職人たちが道具一つで器を作り上げていく様子に感動。控えめだけど凛とした作風のみかわ焼は、こうした人々や土地から生み出されるのだと実感しました。背景にある生産者や産地を知ることで、普段使っているみかわ焼にもますます愛着がわくと思います。皆さんもぜひ三川内地区を訪ねて、器を手にとってみてください。(K)



平成23年度ヘルシークッキングコンテスト
—おふくろの味部門優秀賞—

麻婆はるさめ根菜丼



考えていただいた人
浦田麻未さん
長崎国際大学

根菜類を電子レンジで加熱するので時間が短縮できます。根菜類が苦手な人でも、麻婆味が染みているので食べやすいですよ。

●1人分の栄養価 熱量481kcal、タンパク質13.3g、脂質9.5g、塩分2.1g

- 材料・4人分
- ひき肉 160g
 - 油 小さじ1・1/2
 - 春雨 60g
 - A [レンコン、ニンジン
ダイコン 各100g
 - ショウガすりおろし 少々
 - 小ネギ 10g
 - 豆板醤 小さじ1
 - B [酒、砂糖、しょうゆ 各大さじ1
 - みそ 大さじ2
 - かたくり粉 小さじ2
 - 水 大さじ1
 - ラー油 小さじ1
 - ごはん 600g

作り方

- ①Aの野菜は皮をむき、2cm角に切り、600ワットの電子レンジで5分ほど加熱する。
- ②フライパンに油を入れてひき肉を炒め、ショウガすりおろしと豆板醤を加えほぐしながら炒め、Bを加える。
- ③①と戻した春雨を加え、2分ほど煮立たせ、水で溶いたかたくり粉を回し入れる。
- ④とろみが付いたら、ラー油を加えさっと混ぜる。
- ⑤ごはん④を乗せ、小口切りにした小ネギを散らす。

市長日記 徳育推進のための行動計画



11月1日、佐世保市徳育推進会議（会長・木村勝彦長崎国際大学人間社会学部

長）から「徳育推進のための行動計画」の提言書をいただきました。

今、大人に対する徳育が重要視されています。「子どもたちは同じように教育された大人によって教育されなければならない」と哲学者カントが言葉を残しているように、まず大人が「徳」を理解しないと、子どもたちに規範などを教えられないのではないのでしょうか。

そんな思いから、本市では昨年3月に市徳育推進会議を設置し、「徳育推進の具体的な目標と方策」について諮問をしました。会議は元長崎県教育委員長の平田徳男先生にアドバイスをいただきながら、公式なものだけでも9回開催され、14人の委員の方々がそれぞれに思いや意見を述べられ、このたび提言書にまとめていただきました。木村会長をはじめ委員の皆さま



市長に提言書を手渡す木村会長

には改めてお礼とお労いを申し上げます。提言書では「佐世保市民が目指す徳のある市民像」を設定し、これを実現していく方策として、家庭での手伝いや地域でのあいさつなど、市民が具体的な目標を一つ立てて実践する「一徳運動」などが提案されています。

今後は徳育を推進する体制をつくり、この提言書を基本として市民の皆さまに広く啓発していくなど、「徳育は佐世保から」の思いで、一歩踏み出していこうと思いますので、市民の皆さまのご協力をお願いします。

佐世保市長 朝長 則男

徳のある市民像

感謝と思いやりの心を持ち、自分を律し、勇気を持って他人のために何かができる人

感謝と思いやりの心を持つ

- ・素直に「ありがとう」と言える
- ・笑顔であいさつができる
- ・人の気持ちを考えられる
- ・お年寄りや弱者を気遣える
- ・自然や郷土を大切にできる

自分を律する

- ・自分や他人の命を大切にできる
- ・社会のルールやマナーを守れる

勇気を持って他人のために何かができる

- ・進んで家族や周りの人のために何かができる
- ・学校や地域の行事等に進んで参加できる

一徳運動



市役所北側から万徳町方面に通じる道は、八幡橋で佐世保川を渡ります。市役所側の橋のたもとに、ひっそりと最初の橋の親柱が残っています。古びた高さ九十センチほどの石柱で、明治二十二年（一八八九）年十二月と建設年が書かれています。

発起世話人は永盛慶山を筆頭に寺山廉介、林弥平、吉原一次郎、山本陸太郎、濱崎梯一郎、富田茂助、今泉忠衛門といった、佐世保村地着きの有力者の名が並んでいます。このほかにも、多数の人々が建設資金を寄せ、その名前が金額と共に克明に刻まれています。この初代八幡橋架橋について、こんなエピソードがあります。参議院議員を務めた篠崎年子さん（九十二歳）が、平成四年発行「させぼの女性史」第一号で、義母つなさん（昭和四十五年、八十九歳で没）と昭和三十四年に対談し、明らかにしています。

歴史散歩 第557回

八幡橋の親柱 ● 八幡町

撮影・文 ● 筒井隆義



対談によると、林家から永盛慶山の養女となったつなさんは、谷郷町の庄屋敷だった小学校に通った明治二十二年（一八八九）年ごろの思い出を、息子の嫁の年子さんに話しています。

永盛慶山は、幕末まで山伏（修験道の行者）だった傳生院こと永盛傳生の子。当時清水町に住まいがあり、谷郷の小学校に通うには佐世保川を渡らねばならず、つなさんは川の中に平らな石を並べた飛び石橋を渡って通学していました。雨で川が増水したときは、祖父・傳生が背負って渡ってくれました。

つなさんのように、佐世保川右岸の人は大雨のたびに川が渡れず困っていたので、永盛慶山が世話人となって地元の人々に呼び掛け、立派な木橋が架けられたのです。橋のたもとの親柱は、住民の不便解消のため自分たちで拠出し建設した記念碑でもあったのです。

子ども子育て応援センターから 児童虐待防止 の話

虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときには、関係する機関に速やかに連絡することが法律で義務付けられています。あなたからの連絡が、子どもを虐待から守るための大きな一歩となります。ためらわずに子どもを虐待から救うための行動を起こしましょう。

児童虐待とは

身体的虐待	殴る、蹴る、投げ落とす、やけどを負わせる、溺れさせる など
性的虐待	性的行為の強要、性器や性行為を見せる など
ネグレクト	食事を与えない、ひどく不潔にする、家に閉じ込める など
心理的虐待	言葉による脅し、無視、兄弟間での差別的扱い など

平成22年度の佐世保市子ども子育て応援センターへの相談件数は延べ6,834件(1,952人)で、そのうち子どもの相談は5,088件(714人)、児童虐待の相談は2,548件(214人)でした。

☎子ども子育て応援センター ☎25-9705

「おかしいなあ」と感じた時の連絡は…

「虐待を受けたと思われる子ども」を見つけたときや、ご自身が出産や子育てに悩んだときは、以下の施設に連絡してください。

佐世保こども・女性・障害者支援センター 24時間受け付け ☎24-5080 万徳町10-3	佐世保市子ども子育て応援センター ☎25-9705 高砂町5-1 中央保健福祉センター
--	---

※連絡を受けた後、虐待かそうでないかは、通告を受けた機関が調査を行います。仮に調査の結果、虐待の事実がなくても、連絡が法律の趣旨に基づくものであれば、連絡者が法の責任に問われることはありません。また連絡した人のプライバシーも守られます。

